135周年記念誌に寄せて

医学部附属病院長
宮崎　　勝

このたび千葉大学医学部が135周年を迎え，記念誌を発刊するに際して，改めて本学部の歴史の重みを感じているところです。

私自身は昭和44年に医学部に入学し，学生として６年間を亥鼻キャンパスにて過ごしました。東京の下町の高校出身の私にとっては，緑多き自然の豊かな学舎であり素晴らしいキャンパスと感じました。このキャンパスは新入学生を常に暖かく迎え，多感な年頃の医学生が様々な思索をめぐらして毎日を過ごすには，本当に恵まれた環境の様に思えます。

当時の医学部はバス通りを登って最初の西門から入って右手にある建物でした。現在この建物は綺麗に改修されて看護・医薬系総合教育研究棟として使用されています。西千葉キャンパスの教養課程を終えた後に，亥鼻キャンパスで医学部３年次として基礎医学を学びました。当時の医学部の基礎系教授の先生方は，大変個性豊かな方揃いで（今でも基礎系の教授の方々にはその気性は残っているようですが），今思えばその講義は大変ユニークでしたが，授業を通して学生へ向けられる教師としての愛情を大変強く感じることが出来ました。とは言っても当時の学生はそのような事には気づかず，気ままでいつも大勢の学生が出席していた訳ではなかったのです。しかし，先生方は強く叱ったりされる事なく学生の自主性を重んじてくれたように思います。現在の出席率はその時代に比べ見違えるようですが，医学を学ぶ姿勢にはどのような違いが有るのか，その後に臨床に来た最近の学生を担当してみて改めて考えさせられる所です。

当時の医学部附属病院は，現在の医学部本館です。今でも，一階の玄関口を入り吹き抜けのステンドグラスを見上げると，いつも大勢の患者さんが列を作られていた頃を懐かしく想い出します。この医学部本館の建物は，今後も改修や修理は必要でしょうが，歴史的建造物として大切に保存して行くべきものと思います。千葉大学医学部で学んだ者にとって心の故郷でもある医学部本館およびその周辺のキャンパスを含めて大切に守って行きたいものです。

私は現在医学部附属病院長としてその責務を負っておりますが，医学部において教育，研究，診療を行ってきた者達の心の中には，医師として，医学者として皆同一の共通した価値観が根底に流れているような気がします。その共通の価値観とは“For the Patients”です。医学，医療にかかわる様々な仕事に携わる者の価値観の中で，最もpriorityをおくべきものがこの“For the Patients”であったのではないかと思います。今後もこの共通した価値観は維持され，引き継がれて行くであろうと思いますし期待もしています。その価値観を一義的にもつ優れた臨床医，医学研究者，様々な医療人をこれからも育成し続けることを，現在この千葉大学医学部の学舎に籍を置いている者一人一人が今回135周年の歳月を迎えるにあたり改めて強く認識して行きたいと願っています。